

使用済燃料再処理機構 第16回運営委員会 議事概要

- 1 開催日時 平成29年10月26日（木）15時30分～17時30分
- 2 開催場所 使用済燃料再処理機構 会議室
- 3 出席委員 近藤駿介（委員長）、中根猛（委員長代理）
塩越隆雄、徳植桂治、山口彰、四元弘子
出席理事 井上茂（理事長）、村永慶司、関口恭三、豊松秀己
同席者 山上圭子（監事）

4 議事の経過および結果

（1）委員会の成立状況の確認

本日の運営委員会の出席者は10名であり、定款第11条第1項に定める運営委員会の成立要件である総数の過半数が出席しているため、本委員会が成立したことを確認した。

（2）議案審議および自由討議

a. 主な業務の執行状況について

理事長から、主な業務の執行状況について説明を行った。また、事務局から、平成29年度第2四半期収入支出の報告を受けた。

<添付資料>

[「主な業務の執行状況」](#)

b. 再処理事業等の状況について（日本原燃株式会社）

日本原燃株式会社から、再処理施設非常用電源建屋における雨水浸入事象等に関するこれまでの経緯や、[事業者対応方針](#)に基づく改善活動等について説明を受け、自由討議を行った。

原子力施設においては安全の確保が最優先であるため、事務局において、本日の意見も踏まえ、改善活動の取組状況を適宜、確認するとともに、確実な実施を促していくこととした。

○主な意見

- ・原子力施設においては安全の確保が最優先されるべきとの観点から、一度、立ち止まって、設備の全数を管理下に置く等の改善活動に最優先に取り組む決断をしたことは良いことだと受け止める。
- ・経営トップ自らが先頭に立ち改善活動に取り組んでいくことは心強く感じる。組織をマネジメントするに当たっては、経営トップの覚悟と熱意が全ての従業員に伝わるのが肝要。
- ・問い掛ける、学ぶ、という姿勢が安全文化の要諦であるが、過去の事例等から学ぶという姿勢が欠けていたのではないかと。安全文化を醸成するに当たっては、経営トップが考える安全文化とは何かを従業員に発信していくとともに、それが一人ひとりに浸透していることを確認することが必要。
- ・再処理をはじめとする日本原燃の事業は核燃料サイクルの要であり、従業員のみなさんは非常に重要で意義のある仕事に従事しているというメッセージを、経営層は毎日でも発信することが必要。
- ・CAP（是正措置プログラム）の改善に当たっては、報告を生かす仕組みを明確にするとともに、その運用についてもPDCAを回していくことが必要。
- ・IAEA（国際原子力機関）の安全原則にあるとおり、安全に対する効果的なリーダーシップとマネジメントの確立、維持が必要。安全上の重要度を把握してリソースを投入するといったマネジメントの枠組みが出来ていないのではないかと。
- ・新規制基準対応も大事であるが、現場は放射性物質を保有して操業状態にあることを認識し、安全確保活動に経営資源を適正に配分して、運営することが必要。
- ・人的リソースを適正に配分し、十分に活用することが必要。一時的に電力から要員派遣を受けることは良いが、彼らが得た知見やノウハウが組織の知識になる知識管理の仕組みの整備を忘れないこと。
- ・社内の第三者による監視チームについては、適切な権限と責任を付与することが必要。また、そのチームが、経営のガバナンス機能として、従業員全員が改良改善に取り組むというムーブメントを醸成していくことが大切。
- ・原子力施設には立地地域をはじめ社会のみなさんに極めて大きな影響を与える可能性が潜在している。そうした施設を運営することの重みをしっかりと胸に叩き込んで、ゼロから出発する覚悟で改善活動に取り組むことが必要。

- ・日本原燃は立地地域に支えられて創業したという経緯を片時も忘れることなく、安全最優先という原点に立って、事業運営していくことが必要。
- ・再処理施設等に関しては海外からも関心が高いことを十分に噛みしめて、改善活動の状況を発信し、立地地域をはじめ社会からの信頼回復に取り組むことが必要。

c. 再処理事業等に関する実績確認について

事務局から、再処理事業等に関する今年度の実績確認状況について報告を受けた。それらの内容をもとに自由討議を行った結果、事務局において、討議内容等を踏まえて、引き続き確認手法の検討を進めていくこととした。

(3) その他

委員長は、議事概要に記名する者として、委員長の他、中根委員長代理および井上理事長の3名を指名したい旨提案したところ、全員異議なく賛成した。

本運営委員会の議事の経過概要およびその結果を明確にするため本議事概要を作成し、前記3名は次のとおり記名押印する。

使用済燃料再処理機構
運営委員会

委員長 近藤 駿介 印

委員長代理 中根 猛 印

理事長 井上 茂 印

以 上